

3. 企画展示事業（平成26年度の展覧会）

第71回企画展「大津の浄土宗寺院 新知恩院と乗念寺」の結果について

- 1、会期 平成28年10月15日（土）～11月27日（日） [開館日数36日間]
- 2、会場 大津市歴史博物館 企画展示室A・B
- 3、主催 大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・京都新聞
- 4、協力 浄土宗滋賀教区・浄土宗滋賀教区大津組
- 5、後援 NHK大津放送局・BBCびわ湖放送・エフエム滋賀
- 6、観覧料 一般800円（640円） 高大生400円（320円） 小中生200円（160円）
- 7、展示作品 118件 168点（一括資料含まず）
- 8、入館者数 3,589名 うち有料観覧者 1,767名（歴博カード会員観覧者484名を含む）
- 9、関連講座

10月22日（土）	近江の浄土宗 講師：今堀太逸（佛教学教授）	参加人数 103名
10月29日（土）	四天王寺の浄土信仰—西門と日想観をめぐって— 講師：一本崇之（四天王寺宝物館学芸員）	参加人数 85名
11月5日（土）	新知恩院の木造釈迦涅槃像 講師：寺島典人（当館学芸員）	参加人数 82名
11月12日（土）	敦煌における浄土変について 講師：田林啓（白鶴美術館学芸員）	参加人数 72名
11月13日（日）	当麻曼荼羅について 講師：北澤菜月（奈良国立博物館研究員）	参加人数 78名
11月19日（土）	新知恩院文書を読む—歴史と由緒— 講師：高橋大樹（当館学芸員）	参加人数 84名
11月20日（日）	浄土教絵画の諸相 講師：鯨井清隆（当館学芸員）	参加人数 46名
11月26日（土）	乗念寺文書を読む—近世都市寺院の歴史— 高橋大樹（当館学芸員）	参加人数 108名

10、図録販売数 新知恩院 536冊、乗念寺 342冊（各A5版64頁オールカラー 価格700円）

11、展覧会の成果と問題点

【内容面】

- ・大津市に所在する浄土宗寺院である、新知恩院（伊香立下在地町）と乗念寺（京町二丁目）の寺宝を展示した。この両寺は、かねてから寺宝の悉皆調査を当館が行わせていただいております、その成果を公開するという形の展示であった。両寺ともそれぞれの地域に檀信徒が大勢おられることから、地元の宝物を展示することで市民の高い関心を得ることが出来た。展示作品は仏像や仏画、古文書など、総合的な内容で、そのうち約八割が新発見や初出陳となった。
- ・昨年「比叡山」展と同様、基礎知識がなければ難解な仏教関連の文化財の理解のために、作品のキャプションの一番上に、作品を端的に説明したキャッチフレーズをつけて理解補助とし、好評を得た。

【広報面】

- ・浄土宗滋賀教区と浄土宗滋賀教区大津組の協力で、滋賀県内約500ヶ寺の浄土宗寺院に、チラシとポスターを配布し、檀信徒に対する広報を行った。
- ・「浄土宗新聞」10月号に開催記事の掲載をしていただき、全国の浄土宗寺院に広報を行った。
- ・初日に浄土宗の門主である伊藤唯眞猊下の来館があり、各誌の取材があった。

【集客・販売面】

- ・会期中の入館者数がほぼ当初の目標どおりとなったが、有料観覧者数（2,000名）は下回った。
- ・両寺の檀信徒、各地域の住人の来館が多くみられた。また、リピーターも多くみられた。

【反省点と今後の課題】

大津市内の寺院の文化財を正確に紹介するのは当館の使命であり、地道な調査に基づく今回の展示は、いわば王道のものをやる事が出来た。実際、住職をはじめとした関係者、檀信徒、周辺の住民からは多くのご満足の言葉やご意見を頂戴した。その一方、その地域以外の人々にとってあまりなじみのない寺院であることも確かで、全国レベルのたいへん立派な宝物を展示できたにもかかわらず、それほど集客数を伸ばすことが出来なかった。今後は、より多くの人々が興味を持ってご来館いただけるよう、周知方法のレベルを上げていかなければならないだろう。